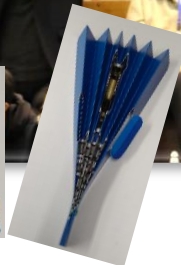


バドミントンS/リーグ仙台大会 激闘の記録 2023年1月15日(日) カメイアリーナ仙台(仙台市体育館)

<第1ダブルス>

佐伯健人/淺原大輔(テルウェル東日本/NTT東日本一東北)組が、これまでの試合でペアリングのなかった川原/三宅組と対戦した。
第一ゲーム序盤から相手ペアの強打・正確なショットに苦しめられ、大きくリードを許した。
その後も展開は変わらず、14-21で第一ゲームを失った。
第二ゲーム目は、序盤から持ち直し、終盤まで互角なラリーを展開するも、勝負所でスマッシュを決められ15-21で敗戦。



今回配布された応援グッズで応援する皆さん。
チームスローガンとチーム名がデザインされたグッズ。
折りたたむとハリセンとなり会場に熱い音を響かせた。

バドミントンS/リーグ2022 仙台大会



バドミントンS/リーグ2022 仙台大会



<シングルス>

澁谷勇希(大和電設工業)が今期初出場の戸内選手と対戦。
長身でサウスポーの戸内選手を相手に粘りのプレーで対抗、一進一退の長いラリーが展開されたが、17-20とあと1点取られると負けとなる場面から、驚異的な集中力と粘りで連続5点をもぎ取り22-20で逆転し第一ゲームを取った。
第二ゲームは終始リードを保ち、粘る相手を15点で振切り今期シングルス初勝利をものにした。
今大会前に仮想戸内選手として地元高校生と練習を重ねた成果が出たのでしょうか。
次戦の京都大会でも、勝利を掴んでもらいたい。



勝利の瞬間
喜びを爆発

<第2ダブルス>

荊澤智樹/日光駿(ドコモビジネスソリューションズ/NTTネクシア)が勝負のかかった大事な対戦に挑む。
ダブルスのエース鈴木大裕(NTTファシリティーズ)を体調不良で欠く中、急造ペアにチームの明暗が託された。
第一ゲームは、急造ペアにもかかわらず、コンビネーションよくコートを取っけ回り、積極的に前に出てエースショットを決め、21-14で先取に成功した。
第二ゲームに入り、豊田通商ペアも地力を発揮し、5-0、11-7とリードしてインターバルをむかえた。試合の流れは豊田通商かと思われたが、インターバル後、日光選手のサービスからのラリーで連続8点を取り逆転するとともに流れを呼び戻した。荊澤選手も効果的なリバースショットを炸裂し、最後は21-17で勝利！喜びを爆発させた。



勝利後の記念撮影

同大会で、昭和電工マテリアルズと対戦した七十七銀行女子チームも2-1で勝利。仙台大会を地元2チームが制しました。

熱い応援ありがとうございました。